

## 『私の口にはいつも神への賛美がある！』 (要約)

詩篇34：1-10 (P.N.原田)

【1】 私はあらゆるときに主をほめたたえる

私の口には いつも主への賛美がある (1節)

主=生ける真の神様への賛美がささげられています。けれども、この詩篇の詩人は過酷な苦しみのただ中であつたのです。「表題」参照。

⇒しかし、主=生ける真の神様を賛美する者の顔は輝いています。真の神様への信頼と神様が共におられる喜びは、その顔を輝かせるのです。

【2】 私のたましいは主を誇る

貧しい者はそれを聞いて喜ぶ (2節)

私たち人間は、その自己中心性=「自分を誇り」、真の神様に背を向け、あるべき道から外れます。そしてしばしば他人を傷つけます。

⇒しかし詩人は、洞穴に身を隠し、「誇れる自分」のいない過酷な状況の中であつて歌います。主=生ける真の神様に身を避け、確信をもって「私のたましいは主を誇る」と。

【3】 私とともに主をほめよ

一つになって 御名をあがめよう (3節)

私たち一人ひとり小さくとも、孤独ではありません。主=生ける真の神様を慕い求める者を、主の御手が包み込むからです。

⇒詩人は、天地万物を造られた、すべてのいのちの源である偉大な主=生ける真の神様とともに讃えよう、一つになってあがめようと大胆に招きます。そして御心を求め、その平和を追い続けよと呼びかけます。

## 【招き】

さあ、詩人が私たちに呼びかける声、いえ、主=生ける真の神様があなたを招く声をしっかり心で受け止め、その招きに応え、高らかに主=神様を賛美しようではありませんか！

私の口には いつも神への賛美がある！

(祈り)

